

図書館の意義・活用の仕方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。いよいよ7月に入りました。健康に気をつけて、しっかり生活し、勉強していただければと思います。
2. さて、先日、公益財団法人の文字・活字文化推進機構の評議委員会に出席してきました。この機構は、文字と活字の文化を進めていこう、促進していこうという団体です。新聞社の社長さんや作家の方、大きな書店の代表の方など、いろいろな方がメンバーに入っています。新聞社の社長さんでは産経新聞社社長の飯塚さん、本屋さんでは京都の大垣書店の社長さん、神奈川の有隣堂の社長さんが入っています。作家では、林真理子さんという著名な方も入っています。全部で16名ぐらいの方が評議員を仰せつかっております。私も、その一人に選んでいただき、数か月に一遍ほど評議委員会に出ています。
3. 先日は、私を含め十数名の方が参加しました。そこでは、これから文字と活字の文化をどのように推進したらよいかを話し合っています。近年は新聞を読まない方がだいぶ増えてきて、「新聞の発行部数が少しずつ減ってきてしまった」と、新聞社の社長さんは大変困っています。新聞をよく読まれる方は中年以上の方で、特に若い方はあまり読んでくれないということで非常にお困りのようでした。

本屋さんは、本離れというか、腰を落ち着けてじっくり本を読むという習慣が身に着いていない方が昔より多くなり、本の売れ行きが非常に悪くてどうしたらよいか困り果てているとのことです。ただ、有名な作家で、山梨の県立図書館の名誉館長を務められた阿刀田さんからは、「家にたくさん本があり、整理したら何と7,000冊も出てきました。これをどのようにうまく使ってもらうか考え、皆さんに読んでいただくことにしました」というお話もありました。このように、新しい本はもちろん、古い本も読んでいただくことが大事だと思います。
4. 私が、この委員会で発言させてもらったのは、図書館をどのように整備したらよいかということです。図書館自体も大事ですが、公立図書館や学校図書館の司書、特に学校図書館の司書の先生が少し足りないようです。その方々をもっと増やして活躍できるようにしていただきたいと提案しました。また、先程の作家の先生のように、家に余っている本がたくさんある方も多数いらっしゃいます。そこで、それらの本を古本屋さんに取り上げてもらうのもいいですが、企業・民

間の有志・NPOなどで集め、ちょっと広い家がある方に場所を提供していただいでみんなで読めるようにするのもよいのではないかと提議しました。さらに、ショッピングセンターやスポーツジムなどの中に空いているスペースがあったら、そこを図書館というか、本を集めるスペースにしてください、家の中に眠っている本をみんなで持ち寄って、地域の方々がもう一回読み直す習慣をつけるために活用するのもよいのではないかと提議もしました。

5. 前にお話したかもしれませんが、フィンランドは非常に読書が盛んで、街角に民間の図書館がたくさんあるそうです。特に、家に本がたくさんある方は、自分の家の一角を街角図書館にして週に1回または1か月に1回ほど開放し、町の人に読んでいただいたり貸し出したりしているようです。これも素晴らしい活動だと思います。

6. また、かかりつけの病院で1か月に一遍ぐらい診察を受ける方も多いと思います。そこで、病院の空いているスペースを図書館にいただき、患者さんや地域の皆さんが本を持ち寄ってボランティアの方にうまく整理してもらい、病院に行く方がそこから本を借りてくるとか、自分の家にある本を寄付するとかしていくと、とても素晴らしい活動になると思います。

7. 介護施設もこれから先、お年寄りの方がたくさんお世話になります。ですから、お年寄りの方の家から本をたくさん持ってきていただいて空いているスペースに集め、そこでお年寄りの方がいろいろなアクティビティをする一環として本を読むことも、素晴らしい活動ではないかと思ひます。

8. ところで、私は、ぜひ見に行きたいと思ひている映画があります。それは、アメリカのニューヨークの図書館を紹介した映画「ニューヨーク公共図書館エクス・リブリス」です。前半と後半があって、全部で3時間半ぐらいの非常に評判を呼んでいる映画だそうです。

このニューヨークの公共図書館では、就職支援サービスプログラム・障害者への住宅の手配・ディナーパーティー・シニアダンス教室・ファッションショー等、市民生活に密着した多様なサービスを社会インフラとして提供しているそうです。国境や言語、思想、宗教の壁がなく、あらゆる人種・民族に属する人々が積極的に図書館生活を楽しむというニューヨークの姿は、民主主義の砦としての図書館、公共図書館の未来の姿であると高い評価を得ているそうです。

9. ニューヨークの公共図書館のような図書館が、栃木県の中にも、皆さんがお住まいの市町村やお近くの街の中にもできたら素晴らしいなと思ひます。ですから、ご紹介させていただきました。